

遺跡を訪ねて11

源氏物語を歩く

- 平安宮をめぐる -

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

宮廷を舞台にした最高の文学作品である『源氏物語』は、あくまで物語の世界ですが、紫式部が実際に見て感じた平安京の事象は間違いなく本物で、確かな事です。発掘調査の成果は、その物的証拠になるものです。内裏の承明門跡や内郭回廊跡、蔵人所町家跡、豊楽院の正殿である豊楽殿跡、朝堂院の正殿である大極殿跡や昌福堂跡など、さまざまな平安宮内の遺跡が見つかっています。これらは、『源氏物語』の背景を探ることに繋がります。

京都の歴史と文化に思いをはせ、関連する遺跡を確かめながら一步踏み出せば、創作した式部の『源氏物語』の舞台と構想に、より近づくことができるかもしれません。

(永田信一)

11京都市考古資料館



平安京跡出土の遺物や遺跡写真を展示しています。特別展示「紫式部が生きた京都」が平成21年1月31日まで開催されています。

4大極殿北面回廊跡・5朝堂院大極殿跡

大極殿の位置を復元する定点となった基壇の化粧石が発見されました。調査成果に基づき「大極殿遺蹟の碑」の位置を復元すると、大極殿の北にあった昭慶門の西側回廊の上に建っています。



9造酒司倉庫跡

宮中で使用される酒を製造する役所が造酒司です。その倉庫跡が見つかっています。



10平安京創生館(京都アスニー)



平安京の千分の一模型が展示されています。特別展示「源氏物語と平安京」が平成20年10月18日から11月17日まで開催されています。

8豊楽殿跡

天皇が御して国家的な饗宴が行なわれる施設が豊楽院で、その正殿が豊楽殿です。発掘調査によって、基壇や礎石掘付、階段跡などが検出され、豊楽殿の規模が判明しました。国の史跡に指定されています。



- 1 一条大路跡
- 2 一条院跡
- 3 大蔵省跡・大宿直跡 おのとのい
- 4 大極殿北面回廊跡 だいごくせん
- 5 朝堂院大極殿跡 ちゆうどういん
- 6 朝堂院昌福堂跡 しやうふくどう
- 7 平安宮西限と藻壁門跡・左馬寮跡 せいへきもん
- 8 豊楽殿跡 ほうらくでん
- 9 造酒司倉庫跡 さうしゆつかさ
- 10 平安京創生館 (京都アスニー)
- 11 京都市考古資料館

* 12~27は裏面に掲載しています。

- 12 平安宮内裏東限と建礼門跡
- 13 内酒殿跡
- 14 内裏跡
- 15 内裏南限と建礼門跡
- 16 内裏承明門跡
- 17 内裏紫宸殿跡
- 18 内裏宜陽殿跡
- 19 内裏昭陽舎跡 (梨壺)
- 20 内裏温明殿跡 (内侍所)
- 21 内裏淑景舎跡 (桐壺)
- 22 内裏凝華舎跡 (梅壺)・内裏飛香舎跡 (藤壺)
- 23 内裏弘徽殿跡
- 24 内裏清涼殿跡
- 25 内裏承香殿跡
- 26 内裏蔵人所町屋跡
- 27 内裏内郭回廊跡

23内裏弘徽殿跡



後宮の中でも重要な殿舎とされています。

源氏物語では、朱雀院の母の弘徽殿の女御が住んでいます。女御は光源氏の母である桐壺の更衣をいじめ、死に至らしめます。そんな場所としてふさわしいと式部は想定しました。

21内裏淑景舎跡 (桐壺)



後宮七殿五舎の一つで、庭に桐が植わっていました。内裏では、清涼殿からもっとも離れた東北角にあります。源氏物語では、桐壺の更衣の居所をここに想定し、后としての身分の低さを表わしました。

16内裏承明門跡



内裏内郭回廊の正面の門跡です。雨水を受ける北側の雨落溝と、門の内側で行なわれた地鎮の宝具を埋納した儀式跡が見つかっています。この跡は内裏の中軸線上にあります。

17内裏紫宸殿跡



内裏の正殿で公的行事の場です。天皇が出御して国家の重要な儀式が執り行なわれました。

24内裏清涼殿跡



天皇の居所です。南半分が公的施設で、北半分が私生活的な場所でした。源氏物語では、光源氏の元服を清涼殿の東庇で行なっています。

26内裏蔵人所町屋跡



清涼殿の西南に置かれた蔵人所とその関連施設。蔵人とは天皇の側近でした。発掘調査で、基壇の高まりと雨落溝が検出されています。

13内酒殿跡



内裏に供する酒を造る役所です。

発掘調査で井戸が見つかり、内酒殿から食料を請求する木簡が出土しました。弘仁元年(810)10月18日の暦日を記しています。

27内裏内郭回廊跡

内裏は内外二重の郭に囲まれていて、内側を内郭回廊と呼びます。衛士が厳重に警護していました。西側の内郭回廊基壇の化粧石や雨落溝などが検出され、国の史跡に指定されています。

